



佐野松陽高校 同窓会会報

平成16年12月18日

編集・発刊

栃木県立佐野松陽

高等学校同窓会

佐野市出流原町643-5

TEL 0283-25-1313

創立30周年を迎えて

同窓会長 田中 博



同窓会会員の皆様には母校並びに同窓会に對しまして温かいご支援、ご協力を頂いております事に感謝申し上げます。佐野商業高校として二十年、平成六年情報制御科（工業科）の設置に伴い、校名も「佐野松陽高校」へと変わり、自分の将来の進路や目的に合わせて商業、工業互いの教科を学ぶ事が出来る総合選択制専門高校として十年の歳月が流れ、今年創立三十周年を迎えました。

現在高等学校を取巻く社会環境は少子化による生徒数の減少や経済産業界のグローバル化、デフレ市場、飛躍的に発展するIT等の技術革新、あらゆる生活で、社会構造がかつてないスピードで変化しております。魅力と活力ある県立高校が求められる中、本校は先生、PTA、地域の方々に支えられ恵まれた自然環境と時代に対応した施設、設備の中、多くの同窓生の方々が商業・工業の専門的な知識と高度な技術を学び、様々な検定資格を得ると共に、「進取、創造、奉仕」の校訓のもと、部活動に、学校行事に充実した高校生生活を過されて参りました。同窓生会員数は七千五百人を越え、卒業後進学され勉学に励む同窓生が増加すると共に、就職され地域経済産業を支え、さらには国内、海外で活躍されている事は同窓会にとって誇りであり、貴重な財産です。

本校同窓会も母校の創立三十周年を機に卒業以来三十年間にわたり同窓会を支えて頂きました牧子会長から第七回卒業の私へとバトンを譲り受けました。十月二十日の佐野市文化会館での記念式典をはじめ、十月三十一日の学校公開、記念誌並びに同窓会員名簿、同窓会報の発刊等、創立三十周年記念事業におきまして宇賀神校長先生はじめ先生方、PTAの皆様、同窓会役員の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。

母校の三十年の歩みを振り返ると共に、価値観の多様化した現代社会に於いて同窓会も今後一層の努力を重ね、会員相互の親睦と在校生、本校教育充実のため寄与して参りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

同窓会会報発刊にあたり

校長 宇賀神 文雄



同窓会の皆様には、本校の教育振興のために、平素から特段のご支援を賜り心より感謝申し上げます。本校創立三十周年を機に、同窓会会報が発刊されることは、会員相互、並びに学校との連携を深める上で誠に意義深いものがあります。

本校は十月二十日に同窓会役員の皆様をはじめ多数のご来賓をお迎えし、創立三十周年記念式典を挙行し、四十周年に向けての新たな伝統作りの一歩を踏み出したところでです。

その節目の年である今年、八月から九月にかけて第一回・第二回・第七回卒業生の同窓会が開催されました。いろいろな産業分野で活躍されている卒業生の姿とお話に接し、本校が地域の企業から信頼され続けている理由を垣間見ることができました。

さて、本校は平成に入ってから、社会の高度情報化・国際化・少子化に対応するために、数度にわたる学科再編等が行われ、現在三学科（商業科・流通経済科・情報制御科）一学年五クラスの構成となっています。安佐地区から通学している生徒は九〇%を越え、創立以来変わることなく、地域の高校としてあり続けています。穏やかな風土の中で育った生徒たちはよく挨拶ができ、来校者から高い評価を得ています。

また、本校の特筆すべき点に進路があります。景気低迷の影響を受け、高校生の就職は厳しいといわれていますが、本校ではこの二年間、年内に全員が内定という素晴らしい成果を収めています。進学でも有名私立大学の指定校や国立大学への進学と着実に実績を上げています。

一方、部活動の活性化等いくつかの課題もあります。今後は、これらの課題に対応し、卒業生が築いてきた伝統を崩すことなく、地域に信頼される学校であるよう、本校職員一丸となって教育に取り組んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、この節目の年に同窓会長の牧子充伯様がご勇退されました。初代同窓会長として、会の立ち上げから組織の整備、そして会員のまとめ役として三十年間尽力されました。更に、学校行事には欠かさず出席くださり、在校生に対して常に心温まる励ましを頂いてきましたことに、心より感謝申し上げます。



記念講演会



記念式典

創立30周年記念事業

平成16年10月20日



来賓



同窓会新役員



感謝状・記念品贈呈

沿革

大正13年5月1日	佐野町立佐野商業学校・佐野第一小学校(仮校舎)開校
大正15年4月5日	佐野市大橋町(現在佐野西中)校舎に移転
昭和18年4月1日	佐野町立佐野工業学校と改称
昭和21年4月1日	佐野市立佐野商業学校と改称
昭和23年4月1日	佐野市立佐野商業高等学校と改称(夜間部新設)
昭和24年4月1日	佐野市立佐野実業高等学校と改称(農業科新設)
昭和25年4月1日	佐野市立佐野実業高等学校は佐野高等学校と合併し、栃木県立佐野高等学校として発足、普通科・商業科・農業科・定時制を置く
昭和47年2月14日	佐野市立佐野商業高等学校建設委員会が設けられ設計・計画・作成に着手(普通科教室一八室、商業科特別教室一〇室、準備室四室、北棟に管理室、家庭科特別教室)
昭和48年1月24日	起工式挙行政(佐野市出流町六四三二五、敷地六四三二五、南棟三九四四m、北棟三七六五m)
昭和49年1月1日	栃木県立佐野商業高等学校設置(栃木県条例第五〇条)
昭和49年3月31日	普通科教室棟・産科棟(鉄筋二階建)竣工
昭和49年4月1日	栃木県立佐野商業高等学校開校(栃木県立佐野高等学校商業科分離独立、赤見分校普通科移転)
昭和49年4月11日	第一回入学式挙行政(全日制男子一〇〇名、女子一〇〇名、定時制一五名入学)
昭和49年7月1日	応援歌「燃えよ進」制定(三村都夫作詞、茂木幸子作曲)
昭和49年10月20日	校歌制定式(岡きよし作詞、飯田隆作曲)
昭和50年1月4日	体育館兼講堂竣工(鉄筋造、一五八八m)
昭和50年2月5日	開校落成記念式典挙行政
昭和50年6月16日	校旗樹立式挙行政
昭和51年1月6日	正門完成(表札の校名、船田謙樹栃木県知事筆)
昭和51年4月1日	格技場竣工(鉄骨造三五六m)
昭和52年3月31日	栃木県教育委員会より昭和五一年度・五二年度実験学校として指定される
昭和53年6月12日	研究主題「電子計算機一般」の効果を高める指導
昭和53年9月30日	定時制普通科課程・栃木県立佐野高等学校へ統合生徒三三三名移籍
昭和54年4月1日	弓道場完成(木造平屋建射場三・八m、的場一四四m)
昭和55年3月1日	プール竣工(二五mプール)
昭和55年9月1日	国旗掲揚場完成
昭和55年10月1日	生活指導室(真摯館)竣工(四〇九m)
昭和58年4月1日	募集定員変更(男子一三五名、女子一三五名)
昭和58年5月13日	栃木県教育委員会より昭和五八年度・五九年度交通安全教育推進研究校に指定される
昭和59年11月13日	創立一〇周年記念式典挙行政
昭和62年4月1日	交通安全折願の塔(田村一制作)設置
昭和62年6月13日	商業科コース制の設定(商業コース、会計コース、流通経済コース)
昭和63年4月1日	募集定員変更二八二名(男女共)
昭和63年6月16日	「商業コース」を「情報事務コース」と名称変更
昭和63年8月27日	「国際理解の集い」開催
平成元年8月26日	栃木県立佐野商業高等学校開校一〇周年記念式典挙行政
平成元年9月10日	栃木県教育委員会より平成元年度・二年度同和教育研究校に指定される
平成2年2月16日	県立学校開放講座開催(一〇月四日)
平成2年4月1日	ブリスベン・ボイズ・カレッジ(B.C)職員二名、生徒三六名来校
平成2年9月17日	「歓迎式典」(国際理解の集い)等開催(九月一七日)
平成2年12月25日	第一回オーストラリア海外研修(職員三名、生徒三〇名)(二月二五日)
平成3年3月18日	流通経済科設置
平成3年4月1日	募集定員、商業科(男女二三五名、流通経済科(男女四七名)
平成3年11月27日	ブリスベン・ボイズ・カレッジ(B.C)職員三名、生徒一六名、父兄五名来校
平成4年3月24日	学則 第二三条一部改正
平成4年4月1日	ワープロ専用機四八台導入
平成4年7月21日	生徒募集定員変更、商業科(男女二三五名、流通経済科(男女四五名)
平成4年10月1日	「会計コース」を「会計事務コース」、「情報事務コース」を「情報処理コース」と名称変更
	アカデミアとちぎ開催(一〇月二二日まで毎週土曜日)
	ブリスベン・ボイズ・カレッジ校生徒三名来校
	ホームステイ通学(一四年一月三二日まで滞在)
	オーストラリア研修旅行出発、生徒三名、職員九名(三月二二日帰着)
	本校生二名ブリスベン・ボイズ・カレッジ校へ短期留学(八月二五日まで)
	汎用コンピュータLANネットワークシステムの導入



学校公開

平成16年10月30・31日



A photograph showing three male students in school uniforms. One student is pouring a white substance from a plastic bag into a large green inflatable pool filled with yellow foam. Two other students are sitting on the edge of the pool, watching the experiment.

イベント風景



福田教頭・小野 晃さん・宇賀神校長

平成4年12月2日	ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校生徒二名来校
平成5年2月26日	ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校生徒二名来校
平成5年3月19日	体育館屋外便所竣工 校技場移転完了部室竣工 オーストラリア研修旅行出発
平成5年3月23日	女子更衣室(体育館)竣工
平成5年3月26日	生徒募集定員変更、商業科男女二〇〇名、流通経済科男女四〇四名、生徒募集定員変更、ボーイズ・カレッジ校へ短期留学(八月一日まで)
平成5年4月1日	平成五年度全国高等学校体育大会女子バレーボール試合会場となる
平成5年7月23日	ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校生徒一名来校
平成5年8月3日	ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校生徒二名来校
平成5年12月7日	工業科棟竣工鉄筋三層建、四九九㎡
平成5年12月8日	オーストラリア研修旅行出発、生徒二名、職員四名(三月三十一日帰着)
平成6年3月22日	学科再編、総合選択制専門高校となる
平成6年4月1日	工業科(情報制御科)設置
平成6年6月15日	募集定員、情報制御科男女八〇名、商業科男女二〇〇名、流通経済科男女四〇名、校長変更、栃木県立佐野商業高等学校を、栃木県立佐野松陽高等学校に改める
平成6年7月23日	(新校舎条例第一号)正門門標校名、渡辺文雄栃木県知事筆
平成6年10月19日	新校舎創立式挙行
平成6年11月6日	本校生一名ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校へ短期留学(八月一日まで)
平成6年12月6日	創立二〇周年記念学校典、記念音楽会挙行会場、佐野市文化会館
平成7年2月6日	ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校生徒三名来校
平成7年3月20日	ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校生徒二名来校
平成7年7月21日	協議問題、生活指導とPTA、交通マナー向上の推進と命を大切にすることを育てる
平成7年10月11日	オーストラリア研修旅行出発、生徒二六名、職員四名(三月二一日帰着)
平成7年12月3日	生徒三名ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校へ短期留学(八月二三日まで)
平成8年3月17日	ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校生徒一名来校
平成8年8月20日	ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校生徒二名来校
平成9年2月12日	オーストラリア研修旅行出発、生徒一八名、職員四名(三月二七日帰着)
平成9年3月16日	第二体育館竣工(一、二六二㎡)
平成9年7月21日	オーストラリア研修旅行出発、生徒二七名、職員三名(三月二七日帰着)
平成9年10月1日	コンピュタの更新
平成9年10月9日	管理特別相談室内外部改修工事
平成9年12月25日	進路資料相談室内部模様替工事
平成10年2月1日	ワイプロの更新
平成10年4月1日	商業科コース制の廃止(系列学習の展開)
平成10年6月6日	ものづくり体験教室、小・中・六〇名(七月二七日、六回)
平成10年8月24日	オーストラリア研修旅行出発、生徒一五名、職員三名(八月三日帰着)
平成10年10月8日	中国浙江省温州市技工学校訪問、生徒一名来校
平成10年10月25日	第一次日中友好在野市民訪中団出発、生徒二名、職員二名(一月三〇日帰着)
平成10年12月20日	ブルースペン・ボーイズ・カレッジ校生徒四名来校(十一月五日まで滞在)
平成11年7月24日	新総合実践系の施設設備整備
平成11年7月25日	マロニエ緑化事業(植栽工事)
平成11年12月10日	オーストラリア研修旅行出発、生徒一名、職員二名(八月一日帰着)
平成11年7月25日	中国浙江省温州市技工学校三名来校(七月二六日まで滞在)
平成11年12月13日	中国浙江省温州市技工学校訪問、生徒二名、職員二名(二月九日帰着)
平成11年12月10日	ブルースペン・ボーイズ・カレッジ校卒業生二名、生徒一四名、職員二名来校
平成11年12月10日	ホリスベン・ボーイズ・カレッジ校卒業生二名、生徒一四名、職員二名来校
平成12年6月21日	ブルースペン・ボーイズ・カレッジ校長夫妻来校(六月二二日まで滞在)
平成12年11月6日	中国浙江省温州市技工学校、職員三名、生徒一名来校(八月一日まで滞在)
平成13年7月25日	オーストラリア研修旅行出発、生徒一五名、職員二名(八月四日帰着)
平成13年11月12日	中国浙江省温州市技工学校訪問、生徒二名、職員二名(二月六日帰着)
平成14年4月1日	商業科「クラス」減
平成14年10月16日	募集定員、情報制御科男女八〇名、商業科男女八〇名、流通経済科男女四〇名
平成14年11月11日	中国ブライト・メモリアル基金アメリカ五教育者受入二名(教員九名、通訳一名)
平成15年1月11日	中国浙江省温州市技工学校との交流、十五名来校(二月五日まで滞在)
平成15年7月23日	ブルースペン・ボーイズ・カレッジ校生徒一名来校(一月二八日まで滞在)
平成15年12月7日	オーストラリア研修旅行出発、生徒一八名、職員三名(八月五日帰着)
平成15年12月7日	ブルースペン・ボーイズ・カレッジ校生徒二名、職員三名来校(二月一五日まで滞在)

発行によせて

佐商高のタイプ部

久保 雅夫

佐野高校商業科が分離独立して、佐野商業高校が新設され、その後、佐野松陽高校に移行して、通算三十年の歴史を重ね、よい伝統を築いていることを、旧職員の一員として嬉しく思っております。

今回 同窓会の三十周年記念誌が発刊されるということで、佐商高の歴史のひとこまとしてのタイプ部について述べたいと思います。

現在では、タイプライターは、ワープロやパソコンにその役割を譲り、殆ど使われなくなりましたが、十数年前までは、公文書や商用文書などに広く用いられた。商業高校では履修科目となっていました。また、競技会も全国大会や県大会が行なわれていました。

私は、学校創立二年目に佐商高に配属になり、タイプ部顧問になりました。ところが、タイプ部は名目部員六名だけで、練習もしていない状況でした。単独商業高校ともなると、競技会への不参加は、学校の体面にも関わる問題で、私の顧問としての初仕事は部員を集めることでした。二年生のタイプ履修者に声をかけ、十名程の助っ人部員を確保して県大会に参加しましたが、文字どおり「参加することに意義あり」の結果となりました。

しかし、大会後も助っ人の大部分が部員として残り、実質的な部活動が始まりました。出発の経緯からしても直ぐに本格的な活動とはならず、他校との実力差も大きい状態でしたが、新入

部員も増えて、活動も次第に活発化し、数年後には部員数十名の校内一の大世界となり、朝練習も取り入れられました。県大会（一校三チームまで出場可能で、約二十五チーム参加、一位が全国大会、三位までが関東大会に出場）で四年目に十位以内となり、六年目に三位（以後関東大会に毎年連続出場）、八年目に一位となり念願の全国大会出場（この三年後に二度目の全国大会出場）を果し、「やれば出来る」ことを部員たちが証明してくれたことは、忘れられない思い出です。

発行によせて

齋藤 庄作

佐野松陽高校創立三十周年及び同窓会誌の発行まことにめでとうございます。

私は創立からの九年間と平成元年からの十一年間の通算二十年間勤務致しました。この間たくさんの同窓会員と先生方と出合いを持つことができました。九〇%以上が嫌という物理を「分り易く」教えるかと「安佐の選手で安佐から甲子園」を目指した二十年間でした。母校足利工高での二度の甲子園出場は佐商での九年間の経験です。二度の勤務では、学校の節目節目に立ち会えることができました。屋上での第一期生の入学式。校歌制定式。応援歌の制定。開校落成式。校旗樹立式。正に学校誕生の瞬間に立ち会えました。特に創立三年間は生徒も先生も、新しい学校を作るんだとエネルギーに満ちた毎日でした。できたばかりの応援歌が毎日昼休みに流され、放課後は屋上で、ドラム缶を輪切りにした太鼓での応援の練習の声。今も耳に残っています。しかし大会では勝利を

挙げることはできませんでした。二度目の勤務では佐野松陽高誕生の瞬間に立ち会えました。工業科の新設による校名変更と総合選択制専門高校への衣替え。創立二十周年記念式典。「松陽」の理由付けは忘れることができません。また昭和五十九年夏の甲子園出場の際、佐商野球部OBが館林駅の三分間の停車時間に、ホームで万歳で送ってくれたこと。足利へ行くと、足工関係者で一杯だらうからと。今も目に浮かびます。私の唯一の卒業生である四十八名のお姫様と野球部員達「粒子的出合い」をたくさんありがと。現在も白鷗足利高で孫ほどの生徒と「夢」を追い続けています。

発行によせて

小泉 治



創立三十周年おめでとうございませう。

佐野高校から分離独立し、昭和五十五年の「極の葉国体」では故和田一吉先生のもと剣道部が全国制覇するなど、意気揚々としていた創成期に終焉を迎えた五十七年に赴任しました。

私の専門が体育であったこともあり、運動や部活動にはかなり注意が行ったのも事実でしたが、スポーツが部活動こそが当時の佐商生に生きがいと夢を与え、佐商を活性化させるのに最も必要不可欠な要素だと確信しました。ところが、赴任当時の部活動はというと、梅雨時以降は校庭や体育館は閑散とし、夏休みには野球部員とソフトテニス部員だけのありさまでした。私も赴任した年にはサッカー部の、三年目にはサッカー・陸上・ソフトボー

ルの三つの顧問を掛け持ちしていましたが、まだまだ成績は今ひとつでした。なんとかしなくてはと考えていた四年目に部活動係の校務を任せられるチャンスに恵まれました。そして提案したのが、一月下旬の土曜の午後に部活動対抗戦を開催し、その成績を翌年の部費に反映させるというものでした。それ以来、私が佐商を離れる平成四年までの毎年、十月頃になると、校庭や校外をランニングする二百人以上の運動部員の雄姿が毎日目に飛び込んできて、浮き浮きしたことを思い出します。そして、ついに思いが届き、昭和六十二年以降は春も夏も秋も冬も、校庭や体育館・格技場で汗する輝く佐商生と活気溢れる佐商高を見て満足しました。さらに、男子バレーボール部と女子ソフトボール部が関東大会出場を果たし、ソフトボール部は関東三位の成績をあげるまでに至りました。

教育効果の高い部活動に力を注ぎ、さらに佐野松陽高校が発展することを祈念します。

等にも力を注ぎました。元気で素直でパワーをもった生徒たちがいっぱいおりました。すべての生徒の家に家庭訪問をするという教育方針もあり、夏休み等を利用して遠く秋山・野上方面、南は藤岡・小野寺方面まで足を伸ばしました。通学距離が長い生徒には、バイク通学を認めており、男子が前後に分かれて女子数人を守りながら一列になつてさつそうと登校してくる様子は、たのもしさがあり、地域の結束力の強さや思いやりの心の深さを感じました。二年生の時、全商簿記一級を目指して、石渡・飯島・渡辺先生の指導のもとに全クラス一丸となった課外授業、そして七〇%の合格を出した時の生徒たちの喜び。船旅で台風に遭遇した時の九州方面への修学旅行。情熱を燃やした体育祭・学校祭・マラソン大会。どれをとっても感動に満ちた体験でした。足を歩いた求人開拓。訪問先で卒業生が元気で働いている姿に出会った時の喜び。卒業生を学校に迎えての企業説明会。そして、生徒とともに真剣に就職先を選んだこと。これらのことは、ついにこの間のような気がします。数々の思い出に感謝いたします。

生徒とともに

川田 忠明



本校に二十年間お世話になりました。教員生活の大半を本校で過ごすことができ、また、佐商商業科出身の私にとって母校という気持ちがあり、勤務できましたことは大変幸せでした。私が赴任したのは、創立二年目であり、当時は校舎と体育館は完成していたが、運動場を中心とするその他の施設設備は整っておらず生徒職員一丸となって教育環境整備のために清掃・除草作業

同窓会役員会改選のお知らせ

平成十六年六月五日から新会長に田中博（七回卒）副会長に須藤泰雄（一回卒）水戸部博（二回卒）大島真寿美（七回卒）渡辺秀廣（十回卒）織田和浩（二十回卒）監事に安塚欣之（二回卒）阿部清（四回卒）津久井靖夫（七回卒）の方々が就任しました。三十年間同窓会長として牧子充伯様、副会長として半田和也様・赤堀功様、母校発展の為大変お世話になりました。